



## 西日本のタマネギ産地に深刻な被害を及ぼしているべと病の防除技術の開発と普及

佐賀県農業試験研究センター 井 手 洋 一

### はじめに

タマネギべと病は *Peronospora destructor* という糸状菌による病害で、茎葉に病斑を生じる。症状がひどい場合には枯れ上がり、鱗茎は小玉化して収量は著しく低下する。さらに重篤化すると枯死する場合もある (図-1)。

過去にも春先に雨が多い年などに発生が多くなることがあったが、本県では2008年(平成20年)ころから本病の被害が問題視されはじめた。特に、2016年産(平

成28年)タマネギにおいては、べと病発生に好適な気象条件が続いたことで、これまでにない甚大な発生となり、べと病の被害で全面が枯れる圃場も散見された。その年の収量は平年の6割ほどまで低下した。また、この年は本県のみならず、西日本一帯の冬春タマネギで大発生したこともあり、流通量は著しく減少した。タマネギ価格の高騰を招き、報道でも大きく取り上げられた。

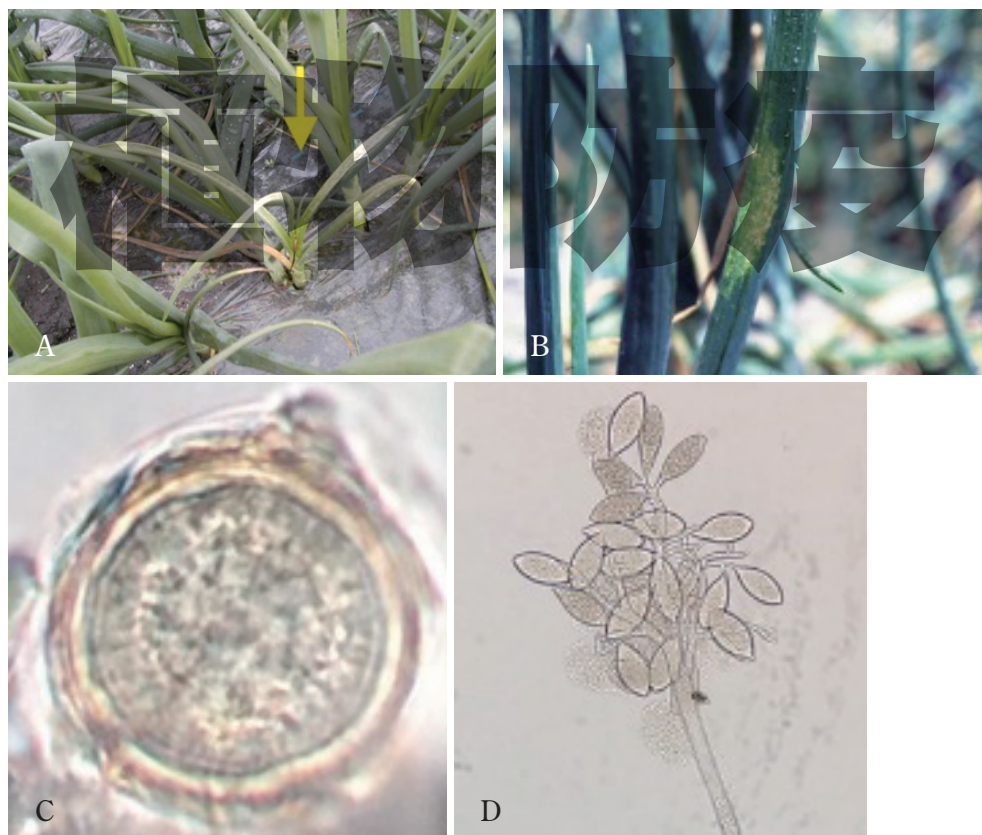


図-1 タマネギべと病の病徴と胞子の形態

A: 一次感染による全身病徴. B: 二次感染による病斑.  
C: 卵胞子(耐久体). D: 病斑に生じた分生胞子.

Development and Dissemination of the Technique to Control of the Downy Mildew on Onion in Western Japan Region. By Yoichi IDE

(キーワード: タマネギ, べと病, 防除)